



1995～1996年度RIテーマ

真心の行動
慈愛の奉仕
平和に挺身



青い空 緑の山と風
黄色のうねりは
人類の理想 文化を表わす。
それらが混然一体調和して
ロータリーの理想に向けて
昂って行く姿を示している。

地区の標語 **原点に帰りロータリーの心を学ぼう**
クラブの標語 **親睦と奉仕でクラブの和を深めよう**

国際ロータリー第2750地区

東京多摩グリーンロータリー・クラブ

No.242 6-15
1995.10.25 発行

Weekly Report



◎幹事報告

幹事 橋口 洋三

第242回例会報告 (10/18)

(1995年～1996年度第15回例会)

◎司会 SAA委員会 委員 奥田 文夫

◎点鐘 会長 萩生田茂夫

◎ロータリーソング ソングリーダー 菊池 敏
SAA委員会委員

「我等の生業」

◎お客様紹介 会長 萩生田茂夫

小堀 憲助様 (中央大学名誉教授)

丸本 昭吉様 (多摩RC)

関戸 達哉様 (多摩RC)

◎会務報告 会長 萩生田茂夫

1. 例会後本例会場に於て、第6回臨時理事会を行います。
2. 前パストガバナー吉田盛次氏の本葬について。
10月25日(水) 青山葬儀場で1時～2時です。
3. 1997年～98年度R1会長ノミニーが決まりました。

グレンキンロス氏

- 1) 次回の例会は来週の水曜日25日を親睦旅行に振替えの10月22日(日)、23日(月) 飯山温泉、元湯旅館で行います。午後5時集合、5時30分点鐘です。ゆったりなさりたい方は3時30分からチェックイン出来ますのでよろしくお願いします。車で行かれる方で元湯旅館周辺の地図がほしい方は西川さんに言って下さい。電車でいらっしゃる方は小田急線本厚木駅、4時集合です。お迎えのバスが来ます。
- 2) 多摩三分区合同IMのご案内と登録料納入のお願いが届いています。

11月20日(月) 京王プラザホテル新宿で開催

12時：登録 16時：閉会 18時30分～：懇親会

今回は、分科会形式ではなく、参加者が一堂に会して講演を聞き、又続いて、会場からの発言も大歓迎の活気溢れたパネルディスカッションを二つ企画し、多摩三分区合同にふさわしい懇親会の席を設けようとしているそうです。パネラーに我がクラブの赤尾会員が選出されています。

1人10,000円 × 会員数(9/30現在)

皆様の年会費の中から振り込まれる訳ですから、一人でも多くの会員が参加されますようお願いいたします。

そこで、当日出席予定者と懇親会まで出席予定者の出欠を回覧で取りましますのでよろしくお願い致します。

東京多摩グリーンロータリー・クラブ

会長：萩生田茂夫 副委員長：吉尾善太郎・山崎 光一
幹事：橋口 洋三 委員 平野行廣・飯島裕美・根本泰守
会報委員長：小城 章員 関岡俊二・城倉正博・戸田昭寿

例会場 多摩そごう7F パンケトルーム

事務局：東京都多摩市落合1-9-1
多摩センタービル7階

TEL 0423-72-6463/FAX 0423-72-6491

例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30

委員会報告

◎ニコニコBOX 親睦活動委員会委員 奥木 博勝

萩生田茂夫：小堀先生の卓話楽しみにしています。

橋口 洋三：卓話に小堀先生をお迎え出来たので。

平野 行廣：記念品三つ戴きました。今二つの想いに
ふけております。

杉山 英巳：学生時代の師、小堀先生を迎えて。

大熊 将夫：小堀先生お久振りです。卓話を楽しみに
しています。

田中 實：小堀先生ようこそ。

小城 章員：5周年反省会、白井さんありがとうござ
いました。

遠藤 立一：秋晴れで。

本日合計 金17,000円 本年度累計 金348,106円

◎出席報告 出席委員会委員 菊池 敏

会員総数	54名
出席者数	40名
本日出席率	74.07%
10/4出席率	90.74%

■メイクアップ 3名

小林 和夫 (10/17多摩)
高村 弘 (10/17多摩)
伊神 稔 (10/7青少年交換委員会)

■欠席届出者 12名

大松 誠二 猪股 末男 石田 政昭
伊藤 英也 伊東 巖 伊澤ケイ子
風間 茂穂 森田 舞子 根本 泰守
関岡 俊二 新海源四郎 高野 範城

■欠席者 2名

足立潤三郎 伊神 稔

◎ロータリー豆知識 ロータリー情報委員会委員長 宮本 誠

定款第5条 会員身分についての説明。



◎結婚記念日御祝 親睦活動委員会委員 北村 幸彦

遠藤 二郎 中山順一郎 藤本 吉文
横倉 譲 海野 栄一 杉田 誠
杉山 英巳 山崎 光一

誕生日御祝

遠藤 立一 横倉 譲 田中 實
大松 誠二 伊澤ケイ子

令夫人誕生日御祝

山崎 博子様 関岡 良子様 田中 タツ様
菊池知恵子様 奥田 磯子様

◎クラブ会報委員会 副委員長 山崎 光一

クラブ会報第242回、第243回例会報告は11月8日
にまとめて配布します。

これからの卓話(予定)と行事

11月15日 (卓話) 藤田 良雄様 (日本学士院長)
11月20日 IM 京王プラザホテル新宿
11月22日 ガバナー公式訪問 12時30分~13時30分
京王プラザホテル多摩
11月29日 (卓話) 津守 弘範
「私の地域活動—教諭師として—」
12月 6日 (卓話) 橋本 幸夫
「私の地域活動—保護司として—」

(今週の担当 戸田 昭寿)

【卓 話】

「仏事あれこれ」

多摩みゆき幼稚園園長 関岡 俊二



こんにちは、御紹介頂きました関岡です。今日はユニホーム姿でまいりました。着ている着物は改良衣（カイリョウ工）と申しまして、正式な衣（コロモ）の改良型です。正式な衣ですと、袖は長いですし、スカートの様にヒダが多くて外出等には動きにくいものですから外出着として改良されたものです。もっと動き易いのは作務衣（サム工）になります。首にかけて前にさげているものは絡子（ラクス）と言ひまして、お袈裟（ケサ）の縮小版です。お袈裟は衣の上から肩から掛けてつける大きな風呂敷の様な物ですが、よく見ると一枚一枚の布を縫い合わせて出来ています。糞掃衣（フンソウ工）と言って昔インドの僧は着古した、もうこれ以上着る事が出来ないボロボロの布地をもらったり、捨てられたものを縫い合わせて使ったのです。その名ごりが今でもこの様に縫い合わせたお袈裟に残っています。この絡子も縫い合わせてあります。坊主頭にはやはり衣が一番合う様で、背広とネクタイはどんなに洒落ても似合いません。野球選手は野球のユニホーム、サッカー選手はサッカーのユニホーム、大工さんも庭木屋さんもそれぞれ職業に応じたユニホームを着ている時が一番似合っているものです。

さて、僧侶は頭をまるめています。私共の曹洞宗の坊さんはつるつるに剃っています。永平寺や総持寺の修行僧（雲水）は4の日と9の日に頭を剃ります。なぜ剃るかと言ひますと、人間には沢山の煩惱があるものですから、それを髪の毛にたとえて、その髪の毛の数を煩惱と見なして断ち切る訳です。人間の煩惱は断ち切っても断ち切っても生まれますので4と9の日に剃る訳です。私はまだ煩惱の世界を味わいたいと思いますので少々伸ばしていますが、

これはインチキです。いふなれば営業用とでも申しましょうか、いずれ真の坊主になる為に剃るつもりではおりません。髪の毛が煩惱とたとえるのですから、髪の毛の薄い方は煩惱が少なくなってきているという事で喜ぶべき事なのでしょう。決して増毛に努力したり、抜け毛を悔やむことはありません。自信をもって下さい。

さてロータリーは「一業種一会員制」という事で、実にさまざまな職業の方達と出会える事に大変うれしく思います。この間退会された吉尾さんが、私が入った時、これで保険屋さんとお医者さんと坊さんが三人揃ったので、いつでも死ねるなと申しておりました。その後葬儀屋さんの田畑さんがお入りになったものですから準備は万全になってまいりました。さらに石屋さんとお仏具屋さんが入会すればもう何の心配もなく往生出来る訳です。吉尾さんには必ずよい戒名をつけてあげるからと約束していましたが、とうとう逃げ出してしまいました。お得意さんを一人失った様です。

冗談はさておき、今日は「仏事あれこれ」という話ですので少し本題に触れたいと思います。よく檀家さんに聞かれる事は、お線香は何本立てるのが正しいのですか？とか、お焼香は何回やればよいのですか？と訊ねられます。宗派によっては「仏法僧」へ三本立てねばいけませんという宗派もござりますが、私はこう説明しています。まずお通夜やお葬式でのお焼香ですが、殆どの方が前の人を習って3回するのが通例です。大変丁寧でよいのですが、ではなぜ3回するのかという意味はあまり知らないと思います。私共曹洞宗のお坊さんは2回します。1回目は親指と人指し指と中指、これを浄指と言ひますが、この三本の指でお香をつまみ、ちょうどおでこのあたりに両手で薫じて炭の上に落します。これが主になるお香ですから「本香」又は「主香」と言ひます。自分の身につけている俗っぽい臭いをこのお香で清めて、身も心もきれいになって仏様にお参りする訳です。ですからこの1回を丁寧に行います。次に二回目のお焼香ですが、これは指でつまんでそのお香をすぐ炭の上に落します。これでおしまいです。この二回目のお香は「従香」と申しまして、次の人につなぐ為にお香の尖が消えない為につなぐのです。ですから薫じる必要がないのです。ではなぜ3回なのかと言ひますと、「主香」「本香」の前に行うお焼香を「先香」と言ひます。これは沢山の坊さんが集って法要をとり行う時に、中央にいる導師様がお焼香をする前に、維那（イノウ）という役

の人が、ちゃんと炭の火が入っていて導師様がお焼香出来るかどうかつかつかと前に出て一回試してみます。これを「ためし香」又は「先香」と呼びます。これを含めると3回になる訳です。しかしお通夜やお葬式の時は多勢の人達が次から次へとお焼香するのですから、この「ためし香」も3回目の「つなぎ香」も必要ありません。一回両手で丁寧に薫じて拝めばそれで決して失礼にはなりません。この意味を知っていれば一回でよい事がおわかりでしょう。一回だからといって恥ずかしい事はありません。さっそく次回からそうして下さい。寒い中、長蛇の列でなかなかお焼香が出来ない時など、皆さんがこうすれば大変スムーズに進行します。お線香もそうです。1本火をつけて丁寧に薫じて立てればよいのです。お線香の火の消し方にもいろいろな人がいます。火がついたら左右に振って消す人、あまり振りすぎて折れてしまっていてあわてている人、指でつまんで熱さを我慢して消している人、フーと息を吹きかけて消す人さまざまです。息を吹きかけるのはあまりよくない消し方です。お香もお線香も身を清める為にあるのですから、人の息をかけて消すのは仏様に失礼にあたる訳です。ではどう消し方がよいかと言いますと、お線香をつけたあと、さっと下に引きますと折れずに消す事が出来ます。それとお線香を立てる時、後の人の事を考えて右奥又は左奥から立てていくのがエチケットです。中央から立てますと、最後の人は香炉の端しか残らず立てるのに苦労しています。

さてお香の話が出ましたので、お香についてお話し致します。「百聞は一見にしかず。」と申しますから、きょう伽羅（キャラ）木で出来ています不動明王のある業者から借りてまいりました。回しますのでご覧下さい。又この伽羅木のごく一片（0.5g位）を香炉で焚いてみますので香の匂いを味わって下さい。嗅ぎ慣れない人にとっては、いやな臭いかも知れませんが、昔から珍重されております。参考にお話ししますと、この伽羅は1g定価で4,000円位です。この不動明王は約850gですから伽羅だけで340万円です。この彫物は有名な佛師の松久宗淋佛所で彫られたものですから相当な値段になります。約300年位この匂いが消えずに残ると言われています。

香の代表的なものを沈香（ジンコウ）と申します。沈香の中でも最高品位のものが伽羅（キャラ）です。沈香は沈水香とも呼ばれ、比重が重い為水に沈みます。伽羅はサンクリット語のカーラー（黒い）という語源からつけられ

ました。産地はベトナムでその他の地域では採れません。香木に沈着した樹脂の部分が数10年～100年以上土の中に埋もれ、木質部分が腐り残ったものです。熱帯密林に入り手作業で掘り出す原始的な採取法と、自然破壊がもてなかなか手に入らない稀少価値のものです。昔から「金1匁 伽羅1匁」とも言われています。このお香を聞くことは体にも大変よいと言われ医療に使ってみようと秋田大学医学部で取り組んでいます。何といっても精神的に気分をさわやかにさせる、落ちつかせる、頭をスッキリさせる等の作用があると言われます。人間の嗅覚は本能や感情と強く結びついている様です。例えばウナギを焼くにおいを嗅ぐと食欲が出てくるとか、体の調子の悪い時、特に胃の調子の悪い時は匂いに対して敏感になります。お香は精神を安定させ、少しの量で足りますし、常に用いても害がないと言われています。ストレスの多い現代人には特によく、又香道をする人は長寿が多く、亡くなる最後迄はっきりしていると言われます。

お香と同じく体によいのは座禅です。座禅はお寺の座禅堂で行うのが正式ですが、自宅のフトンの上、静かな所ならどこでも行えます。曹洞宗では、忙しい現代人にも手軽に出来る椅子座禅の指導もしています。道元禅師は座禅の心構えを一言「只管打座（シカンダザ）」と言っております。つまり座禅をしたから偉くなるとか、ゴルフのパットが入る様になるとか、そんな欲を持って座ってはいけません。ただひらすらに座るだけですと示しています。とはいえ座っている間にあれこれ頭の中に考えがよぎります。その考えにこだわってはいけません。右から左に流す様にして、追いつけない事が大切です。座り方はお尻に坐蒲（ザフ）をあて、ない時は座ぶとんを二つ折にしたものでも結構です。足は右の足を左のものの上、左の足を右のものの上のせるか、左の足を右のものの上のせるだけでも結構です。背すじを伸ばし、少々あごを引き、両肩の力を抜き、手は法界定印（ホツカイジョウイン）と言ってまるく組み、おへその前あたりに置きます。目は半開きで3尺先を見おろす位の位置です。呼吸は静かにゆっくりと鼻で行い、腹の底からはき、腹の底まで吸い込みます。時間は皆さんの許す範囲でよいのです。5分でも10分でも、御自宅の静かな所、あるいは椅子に座ってでも結構ですから試してみてください。きっとスッキリすると思います。

第241回（10/11）例会において

（卓話担当 関岡 俊二）